

「教科等の本質的な学びを踏まえた主体的・対話的で
深い学び(アクティブ・ラーニング)の視点からの
学習・指導方法の改善の推進」事業について

三重県教育委員会事務局 高校教育課
令和元年8月5日(月)

経緯①

「教科等の本質的な学びを踏まえたアクティブ・ラーニングの視点からの学習・指導方法の改善のための実践研究」(文科省)

平成28年度

○ アクティブ・ラーニング型授業とは

平成29年度

○ 「深い学び」とは

経緯②

教科等の本質的な学びを踏まえた主体的・対話的で深い学び(アクティブ・ラーニング)の視点からの学習・指導方法の改善の推進(文科省)

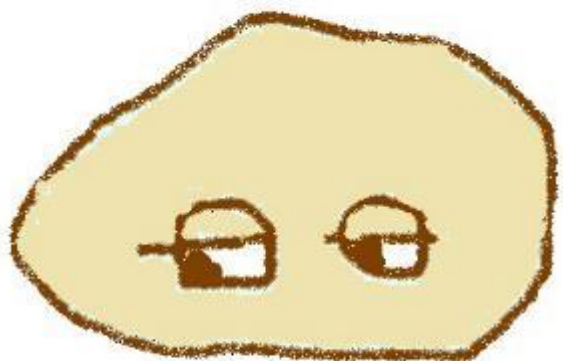
平成30年度

○ カリキュラム・マネジメントの視点から

令和元年度

○ ???

教科等の本質的な学びを踏まえた
主体的・対話的で深い学び
(アクティブ・ラーニング) の視点からの
学習・指導方法の改善に関する実践報告



ゴエゴエ

令和元年8月5日

三重県立川越高等学校
教諭 原 健

学校紹介

創立34年目

普通科 6クラス

国際文理科 2クラス

(平成24年度に英語科より改編)

今年度より55分授業 2学期制を導入

大学合格実績

国公立大学 116名 (H31.3)



アクティブ・ラーニング推進事業

- 平成27年度 A Lの導入（県事業）
A Lに関する研修会・研究協議会の実施
- 平成28～29年度 A Lの実践
各教科における効果的なA L型授業の実践
I C T活用の推進
- 平成30年度 A Lの進化①
- 令和元年度 A Lの進化②

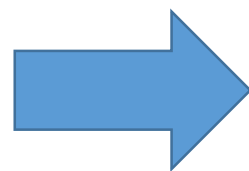


アクティブ・ラーニング推進事業

主体的な学び

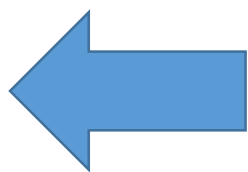
ALの視点を踏まえた授業の実践

対話的な学び



見える化

深い学び



事業を進めるうえでの一番の課題

A L の進化① 平成30年度

- (1) 目標の明確化・意識化
どのような生徒を育てたいか
川越高校生に「つけたたい力」を策定
- (2) I C T の活用
I C T 環境の整備
- (3) 授業改善
各教科の取り組みを見える化

(1) 目標の明確化・意識化

- カリキュラム・マネジメント（CM）委員会の立ち上げ 週1回の会議



授業改善に向けた
対話の充実

(1) 目標の明確化・意識化

● CM委員会 オフサイト・ミーティング

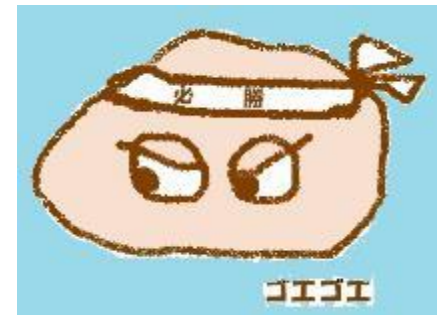


(1) 目標の明確化・意識化

- 川越高校生に「つけたい力」の策定

川越高校生につけたい力

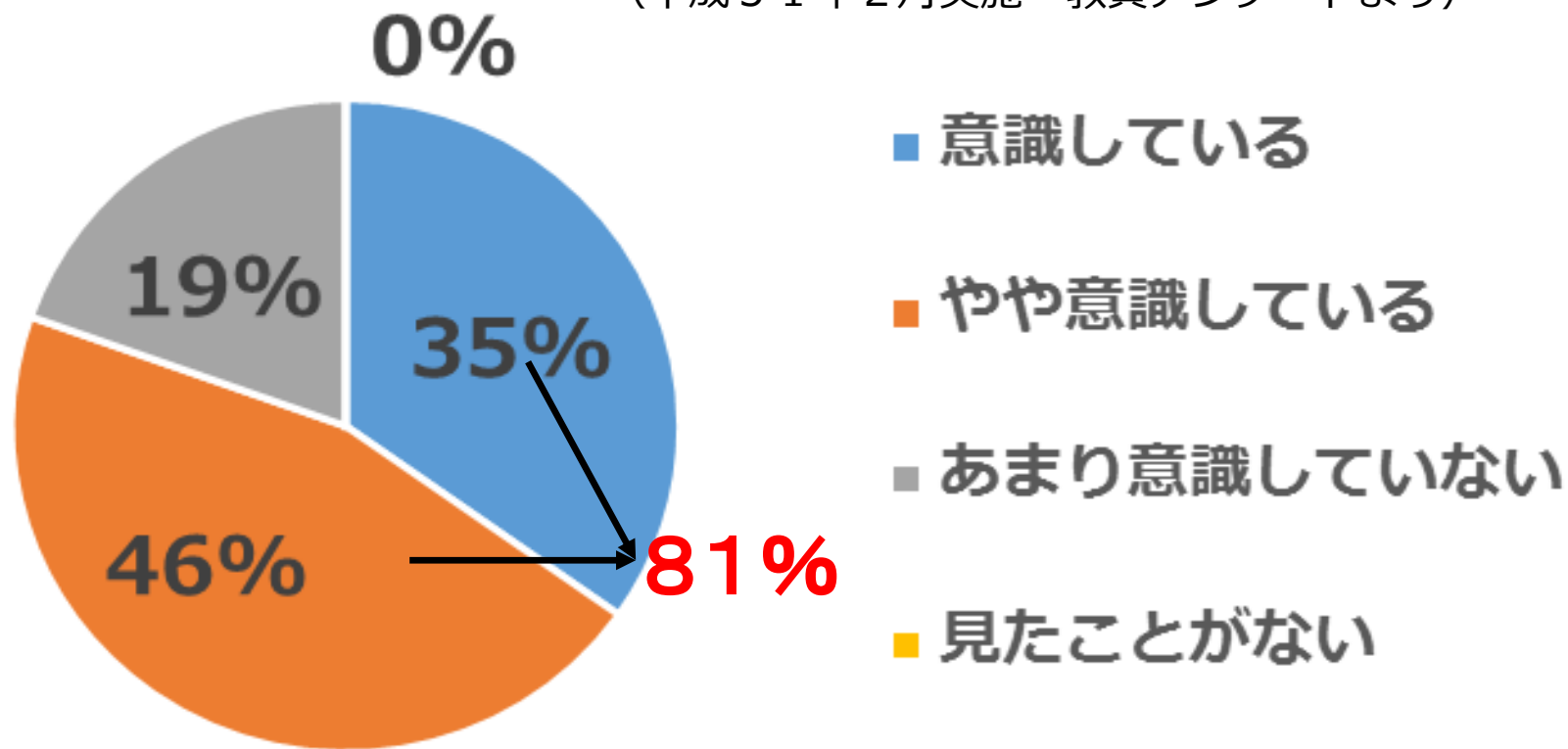
- ☆自ら問題を見つけ、解決する力
- ◎知的好奇心を持ち、知識を身につける力
 - ◎情報を収集し、分析する力
 - ◎物事を論理的に考える力
 - ◎傾聴・発信・協働する力



(1) 目標の明確化・意識化

「生徒につけたい力」について

(平成31年2月実施 教員アンケートより)



(2) ICTの活用

- H R 教室に短焦点型プロジェクタを設置



(2) ICTの活用

● 授業実践だよりの発行 ICT機器を活用した授業実践の情報発信

川越高校授業実践だよりのCM委員会の目的

(1) カリキュラムマネジメントに関する諸事項について検討し、全国委員会に提案する
(2) ICTの活用等について情報共有を図るため、様々な取り組みについて発信する

第1回 How to use Projector

手順1 電源コードとワイヤレスディスプレイアダプターを装着

手順2 タブレットとプロジェクターを接続する

アクティブラーニング 授業実践

report.01 杉山先生 3年生 世界史

導入 10分 小テスト予備と小テスト

授業は小テストの「予想し合い」から始まる。「先生、前の授業でここが大事って書ってた」などと、生徒同士で予想し合う。その後的小テストで知識の確認。先ほどの予想が的中したのかも、生徒たちは感想を言い合った。

展開 40分 読書・演習

書プリント中心で進行
読書書はプリントと同じ内容の
パワーポイントを裏面に投影

場作りへの配慮

① 先生は向かい合わせで

② 生徒は顔し合いやすくなる

③ 距離感により
発言に緊張がなくなる。

④ グループは作らない
- 顔し合う機会を減らさないため、

⑤ 全員が回答する 確認し合う

小テストの後は、杉山先生の問いと生徒の回答によって授業が展開される。指名された生徒が答えるのではなく、全員が回答する。
以下、先生から生徒への問い・声かけ

- 「〇〇について、前・後ろ・隣（の生徒）に正確に教えてください」
- 「私、今から“嘘”を言いますので、正しく直してください」
- 「正解が聞えてきたら、私答え書きます」
- 「（自問に書き込んだ内容を表して）河川の位置をセルフチェックしてください」
- 「知識を立体的にしていきたいと思います」等

授業者 杉山先生より

授業の「主役は生徒」！！
教師側の授業達成感ではない。
生徒側への自主的学習感が重要と念頭に置いています。

授業見学を終えて

「授業中、生徒は自主的に発言したり質問したり、手を挙げて意見を述べている。それは教師が準備していたことの結果。第一の要因は、より自由な発言ができるように配慮していること。また、生徒の発言が授業の進捗に大きく影響を与えている。声かけは教師の私でも活用できそうです。杉山先生、授業が面白かったです。」

(3) 授業改善


- 個々の教員の取り組みを集約して授業研究週間前に全教職員に配付

取り組み振り返りシート

所属() 名前()

1. 川越高校生につけたい力

- ☆自ら課題を見つけ、解決する力
- ◎ 知的好奇心を持ち知識を身につける力
- ◎ 情報を収集し分析する力
- ◎ 物事を論理的に考える力
- ◎ 読解・発信・協働する力



2. 今年度の取り組み

	取り組み事項
1.	
2.	
3.	

3. 取り組みの結果と課題

1.	
2.	
3.	

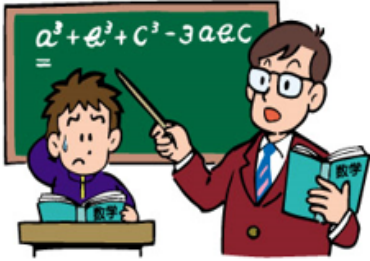
4. 今後の取り組み(改善点)

1.	
2.	
3.	

取り組みアンケート集約

※授業研究週間(11月12日～16日)や今後の取り組みの参考にしてください。

- P 1 国語
- P 2 地歴・公民
- P 3 数学
- P 4 理科
- P 5 保健体育 芸術 家庭 情報
- P 6～7 英語 司書 養護



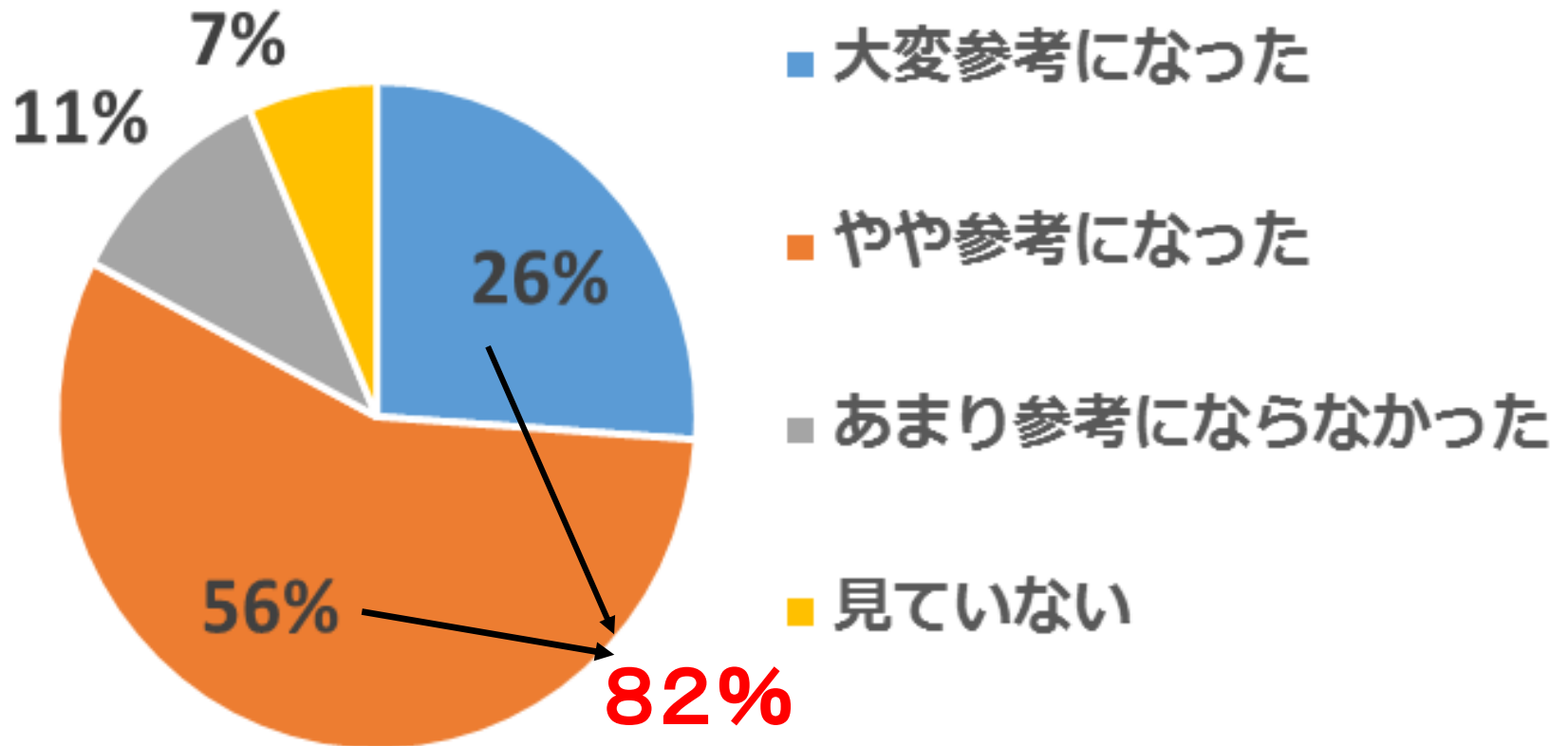
①教科(授業)での取り組み ②分掌他の取り組み ③Classiの活用の有無 ④どのような活用か

2018.11.9 川越高等学校 CM委員会

(3) 授業改善

取り組みアンケート集約について

(平成31年2月実施 教員アンケートより)



(3) 授業改善

●まとめとして教科別取り組みシートを作成

教科別取り組みシート 教科(数学)科目(数学 I)

項目	取り組み
単元別の工夫	<p>1. 2次関数の最大値最小値 4人1組班に1台タブレットを配布。grapesを用いてグラフを動かし、最大値最小値がどのような変化をたどるか考察させた。</p> <p>2. 三角比の拡張 geogebraを用いて、動径を動かし、sin cos tanの値の変化を視覚的に捉えさせた。</p> <p>3. データ分析・図形の性質 箱ひげ図やヒストグラム、定理などは板書せずにプロジェクターや、拡大コピーを用いる。</p> <p style="text-align: right; color: red; font-size: 2em;">見える化</p>

(3) 授業改善

●まとめとして教科別取り組みシートを作成

教科別取り組みシート 教科(数学)科目(数学Ⅰ)

項目	取り組み
授業の工夫	<p>1. 一斉講義型 例題を板書で説明。その後練習問題を生徒にやらせて解説(グループで練習問題をやらせる場合あり)教材は教科書とノートかプリント</p> <p>2. プロジェクター利用型 本時の内容と説明(10~15分) その後グループ別問題演習(30分~35分) 本時のまとめ(5分)</p> <p>3. 問題演習型 初めから4人1組のグループでプリント1枚 問題演習 解答はプリントで配布</p>

全職員で
情報共有

A Lの進化② 令和元年度

- (1) 教科横断型の
学習・指導方
法の実践研究

- (2) 多様な評価の
実践研究

- (3) 総合的な探究
の時間の実践
研究



(1) 教科横断型の 学習・指導方法の実践研究

- ① 「つきたい力」を元に共通の指導案と授業評価票を作成
- ② 各教科の学習内容をどのように関連付けて学びを深めるかという視点で授業研究

推進組織：CM委員会

(2) 多様な評価の実践研究

- ① 定期考査等において思考力・判断力・表現力の各スキルの指標となる問題を各教科で作成
- ② 各教科の見方・考え方や「つきたい力」の評価を元に、学習・指導計画を改訂

推進組織：学習指導委員会

(3) 総合的な探究の時間の実践研究

- ①SDGs（持続可能な開発目標）をテーマに実施する探究活動の研究
- ②探究活動を通して「つきたい力」を育む一連の流れを整理し、本校オリジナルの探究プログラムを開発

推進組織：探究プロジェクト

アクティブ・ラーニング推進事業



主体的



対話的



深い
学び

深い学びの
実現に向けて

令和元年8月5日（月）

「教科等の本質的な学びを踏まえた主体的・対話
的で深い学び（アクティブ・ラーニング）の視点
からの学習・指導方法の改善の推進」実践研究

Belief is Power

～信じる力がわたしを変える～

三重県立紀南高等学校 校長 森 典英

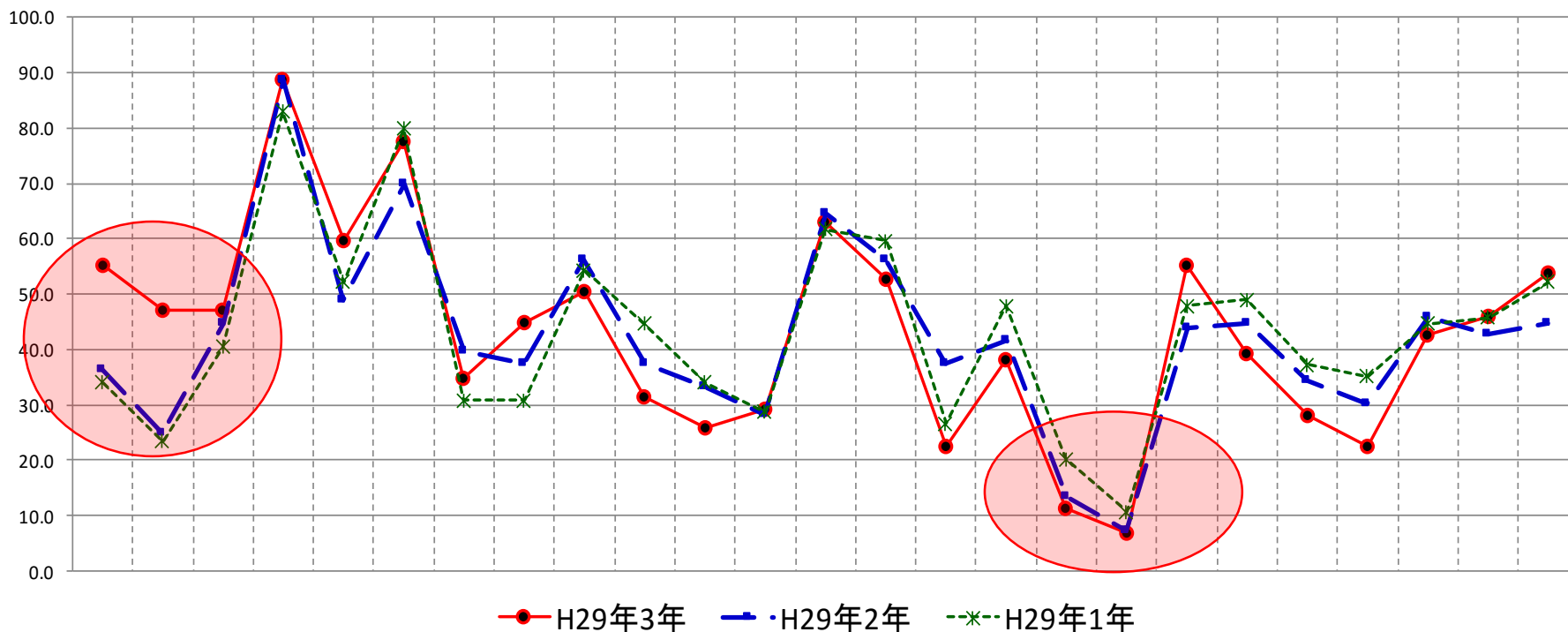
学校紹介 県内最初のコミュニティ・スクール

- ◆ 本格的なインターンシップ
- ◆ 地域と連携した教育活動
- ◆ 充実した学習支援・適応支援

普通科	1年次	2年次	3年次
生徒数	63	78	93



本校の課題① 「みえ高校基礎学カスタンダード」より



本校の課題② 国語科を例として

- ◆ 3年間で育成すべき言語に関する能力を意識していなかった。
- ◆ そのため、特に「話す・聞く能力」「書く能力」といった一部の能力の育成が不十分となった。
- ◆ 言語に関する能力を測定する方法がペーパーテストに依存し、学習評価の妥当性・信頼性が低かった。



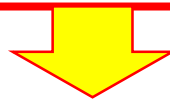
他教科でも課題は同じ

取組① 教務部を中心とした推進チームの取組

- ◆ 授業力交流研修や先進校視察等の実施
- ◆ 3年間の教育活動育成すべき資質・能力の策定

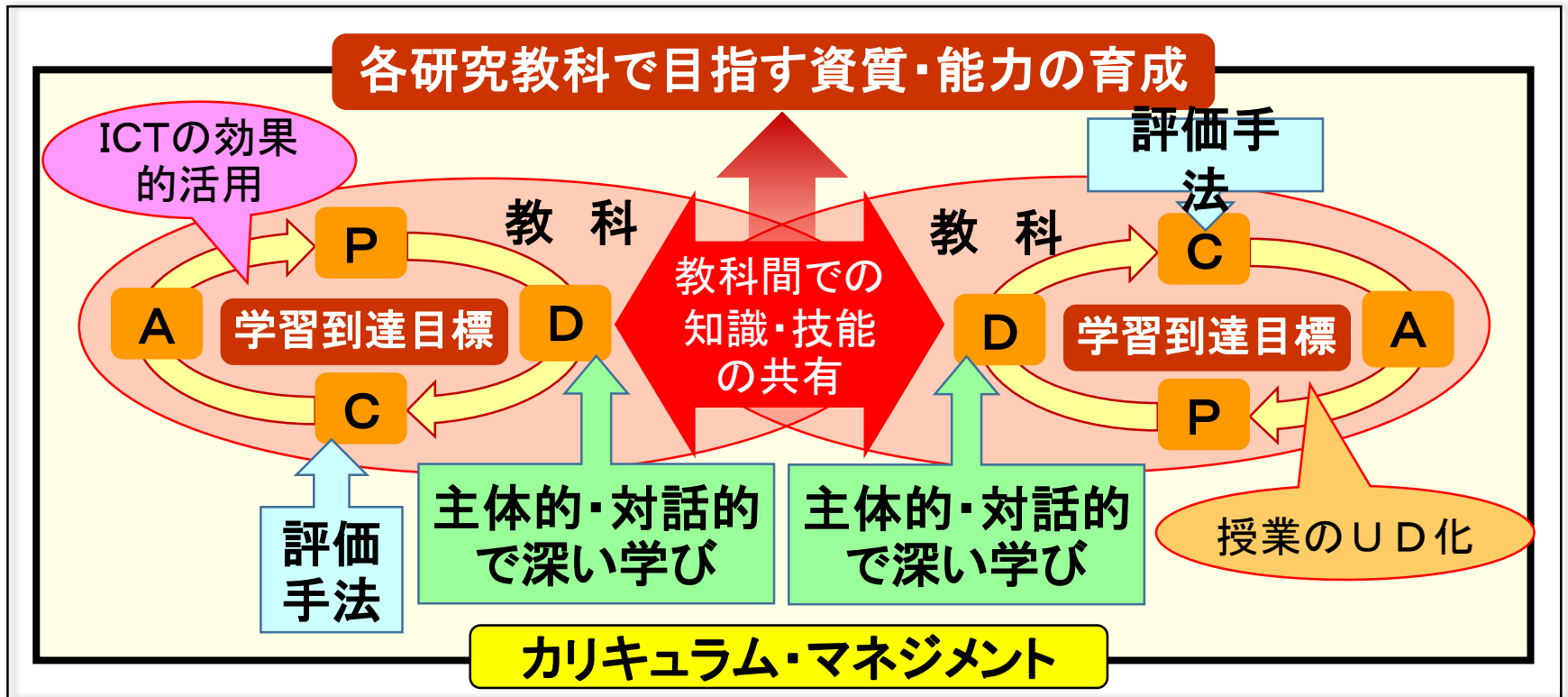
紀南スタンダード

自らの人生を切り拓いて地域社会の担い手として活躍するために必要なコミュニケーション能力



国語科・数学科・英語科において、各教科の「見方・考え方」に基づいた、育成すべき資質・能力を策定

取組② 「紀南スタンダード」の育成を目指して



取組の分析① 学校全体

◆ 教員の授業改善に向けた意識の向上

- 「めあて」や「見通し」の提示、「振り返り」活動は、全授業でほぼ100%
- ICTを効果的に活用した学習・指導方法の研究や、授業実践を行う教員の増加

◆ 「学校満足度調査」（県教育委員会調査）における、生徒が主体的に学習に取り組む態度の育成に係る項目の割合の上昇（H30年10月実施）

取組の分析② 国語科

◆ みえ高校基礎学力スタンダード

- 合計得点で、約2点（25点満点）上昇
- 特に、「話し合いにおける役割」や「発表原稿」に関する設問等において、正答率が上昇

◆ 生徒変容アンケート

- 1年次生の約74%が、程度の違いはあっても、1学期終了時と比べて能力が身についたことを実感

取組の分析③ 数学科・英語科

◆ 数学科：基礎学力の定着と向上

- 教育ボランティアによる採点や、生徒への励まし
- 学びに向かう態度の育成や自己肯定感の醸成

◆ 英語科：「CAN-DO」リストの改訂

- 「CAN-DO」を実態に即した内容へ改訂
- 目標に準拠した指導計画や、授業改善の充実

取組の分析④

各研究教科の課題

- ◆ 国語科：学習到達目標の妥当性・信頼性の検証と、目標に到達できなかった生徒への対応
- ◆ 数学科：基礎学力が十分でない生徒が多い中での、学習到達目標の設定や学習・指導の難しさ
- ◆ 英語科：学習到達目標の妥当性・信頼性の検証と、目標に到達できなかった生徒への対応

今年度の方向性

各研究教科全体

- ◆ 「主体的・対話的で深い学び」の授業力の向上
- ◆ 学期ごとの学習到達目標（英語科は「CAN-DO」リスト）の設定と検証
- ◆ 学習到達目標の達成度を測定するためのスタンダード問題の作成
- ◆ 「生徒変容アンケート」による自己肯定感の把握

ご清聴ありがとうございました。

三重県立紀南高等学校

Belief is Power ～信じる力がわたしを変える～